Network & Footwork

有限会社メディアハウスエイアンドエス Vol.32

おかげさまで創業30周年を迎えます

1986年2月に設立したわが社は、まもなく創業30周年を迎えます。この30年間、私たちは多くのお客さまや友人、知人から有形無形のご支援をいただき、この節目を迎えることができました。この紙上をお借りして、心からお礼を申し上げます。

ふり返れば、この30年間はたいへん変化の激しい、そしてめまぐるしい時代でした。昭和から平成へと年号が変わり、バブル崩壊、ベルリンの壁の崩壊があり、そして「失われた20年」の平成不況がやって来ます。やがて阪神・淡路大震災が起こり、世紀が改まり、東日本大震災と福島原発事故という未曾有の大災害が発生し、東日本大震災は４年以上経過した今日も、まだ復興したとは言えません。

大きく変化する環境で、世代交代を迎えられたお客さまも多くあります。また果敢に中国へ新たな市場拡大されていたお客さまが、日中関係の冷え込みで、一時、撤退を余儀なくされたお客さまもあります。残念なことにご支援をいただいた中には、旅出っていかれた方々もいらっしゃいます。

この30年をひとつの区切りとして、これからも、よりいっそうお役に立てることを目指してまいります。どうか、これからもよろしくお願いいたします。

（高橋記）

■桜島に思う

年末に鹿児島を訪れました。タクシーの運転手との会話は、8月に桜島の噴火レベルが引き上げられ、一部島民が避難したことに集中しました。当時は東京からテレビ局のクルーが大勢押しかけ、たいへんだったそうです。「大丈夫。島では鳥も鳴いてるし、錦江湾にはイルカも泳いでいる。何か起こるなら、鳥もイルカも真っ先に逃げ出し、おらんようになる」。地元の人が、そう言っても取材陣の勢いは変わらなかったそうです。

何ごともなく、まもなく島民4,500名は日常の生活に戻っていきました。

しかし、それだけでは終わりません。今度は桜島が噴火しなくなってしまったのです。昨年こそは一年間の噴火は約650回ですが、その前の四年間は毎年千回を超える噴火をしています。この回数は多くても少なくても、毎日のように噴火していることになります。それが昨年は9月下旬までで1200回を超えていたものの、９月下旬以来、現在（12月24日時点）までのおよそ三か月間、一切噴火しなくなってしまった。

島の高齢者は「どうしたんだろう」と首をひねっているとのことです。

東京にいると、噴火するかしないかが大きな問題と思われますが、かの地では噴火が日常あたりまえ、影響の大きな大噴火かどうかが大きな分かれ目です。

ひるがえって私たちひとりひとりの周りで起こる災害、さらには社会の変化についても起こるのがあたりまえと覚悟をしておくべきなのかもしれません。

「わが前に桜島あり 西郷も大久保も
見し火を噴く山ぞ」（海音寺潮五郎）

飯田英明

■高橋の取材ノートから

群馬の富岡の製糸場、九州・山口の近代産業遺産群に代表されるように、　ここ数年間、各地の近代化・産業化遺産が、多くの人々の関心を引きつけています。その理由のひとつに「遺産」がノスタルジーを感じさせるとともに、かつて熱気にあふれ、活気づいていたその場の雰囲気が残っているかのような空気に直接触れることが、ある種の活力を与えてくれるからではないでしょうか。

ひるがえって私たち自身の周りを見まわせば、もうひとつの社会遺産とでも呼びことのできるものがあります。それは明治という近代化と並んで、日本全体が大きな坂をかけのぼった、戦後から高度経済成長に至る時期の企業の足跡です。

これまでも大企業の歴史については新聞雑誌で取り上げられたり、社史としてまとめられてきました。そうした大企業が戦後からの日本社会に果たした役割はたしかに大きなものがあります。

しかし、その一方で中小企業の果たした役割をけっして軽視することはできません。

中小企業の歩んだ道のりは、そのときどきの社会情勢や経済状況に　ときには大企業を大きく上回る規模で影響を受け、規模が小さいゆえに従業員ひとりひとりのの生活に強く関わっています。

またその地域の発展や衰退に影響を受けながら、一方では地域の発展や衰退にに少なからぬ影響を与えています。

こうしたできごとは、産業遺産がそうであるように、いま記録されなければ永遠に失われてしまいます。

先の見えないいまの私たちに活力を与えてくれる身近でありながら、大切な財産継承のお役に立てるように、今年も取り組みたいと思います。

◎社史・創業者伝

「創業精神の相続」

http://takahashi-akiyo.jp/

○昨年8月刊行の省エネ・電気工事関係の企業様40周年誌の編さんをお手伝いしました。

○昨年9月刊行の小型家電関係の企業様50周年記念誌の編さんをお手伝いしました。

（共に非公開のため企業名は非公開）

○進行中：昨年暮れから、あるお客様の４０年社史編さんの支援をしています。このケースは、すでに編さんのプロジェクトが立ち上がっているのですが、いろいろな事情で進捗が遅れているので、予定通り刊行できるよう支援して欲しいとの依頼によるものです。

すでに刊行のお手伝いをしたある企業様から、30年記念誌のストックが少なくなったので、版型を変えて再版をしたいとの依頼を受けて、作業をスタートしました。

◎My Family History（ブログ）

ようやく、再スタートをしました。

http://takahashi-akiyo.jp/family-history/

（第3章～第4章）

○ホームページ　創業精神の相続

大幅改訂をしました。

http://takahashi-akiyo.jp/

○日本ペンクラブ入会

推薦をいただき、昨年秋、日本ペンクラブに入会しました。

高橋明紀代

有限会社メディアハウスエイアンドエス
〒108-0071
東京都港区白金台3丁目16番10-709号
PHONE　(03) 3449-0785
FAX　(03) 3449-0736
m-hmail@nifty.com
http://www.m-h.co.jp/

©sarajyu,kyonnta,tea-Fotolia